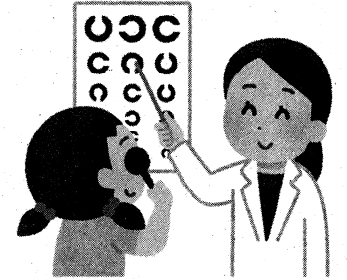


10月は目の愛護月間



10月は「目の愛護月間」として、全国各地で目の健康に関する行事や活動が行われます。

本特集では、島根大学医学部眼科学講座の谷戸正樹教授および原野晃子医員より「糖尿病網膜症のリスクと予防」について記事をご寄稿いただきました。

これを機会に糖尿病網膜症に関する知識と、目の健康に対する関心を深め、健康管理について考えていただければ幸いです。

糖尿病網膜症の リスクと予防

島根大学医学部眼科学講座 教授 谷戸 正樹

同 医科医員 原野 晃子

糖尿病がもたらす 眼の病気

糖尿病になると、眼にもさまざまな病気が起きます。その代表が「糖尿病網膜症」です。

糖尿病網膜症は、血糖値が高い状態が続くことで、眼の奥にある「網膜」の細い血管が傷ついて起こります。血管から血液が漏れて出血したり血管が詰まったりすることで、少しずつ網膜が傷んでいきます。

病気が進行すると、網膜に異常な血管（新生血管）ができることがあります。新生血管から出血を繰り返し、異常な増殖膜ができま

糖尿病網膜症の 治療

糖尿病網膜症に対する治療には、異常な血管ができるのを防ぐためのレーザー凝固、抗VEGF薬（血管内皮増殖因子けっかんないひそうしよくいんし）の眼内注射、硝子体手術などがあります。

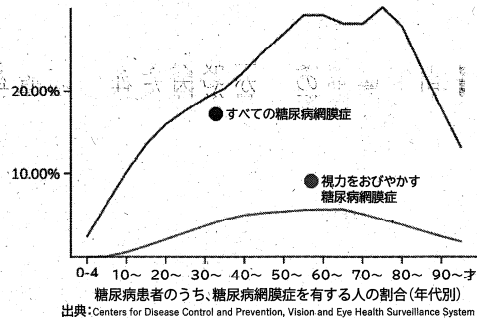
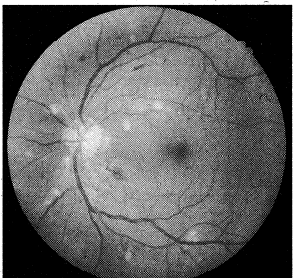
治療効果を得るためには、適切な時期に治療を行う必要があります。まずは、病気を早期に発見することが重要です。

症状がなくても 眼科検診を

糖尿病網膜症の怖いところは、病気がかなり進行するまで、自分ではほとんど気が付かない点です。「よく見えている

から大丈夫」とは限りません。糖尿病のある方では、年齢とともに糖尿病網膜症になる割合が高くなります。米国のデータでは、40歳以降では2割を超え、75〜79歳では約3割に達するとの報告もあります。

糖尿病網膜症の検査では、眼底を詳しく調べます。この検査によって、糖尿病網膜症だけでなく、「緑内障」などほかの眼の病気が見つかることもあります。緑内障も、初期には視力が良好で自覚症状がほとんどないまま進行します。大切な視力を守るために、自覚症状がなくても、定期的に眼科を受診することが大切です。



糖尿病網膜症の眼底写真。
出血や網膜の虚血による
白濁がみとめられる